

# 地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

## CONTENTS

■エソダ・シュレスタさん招聘	1
■エソダさん 笑顔で参加者を魅了	2
■エソダさんにお聞きしました	3
■ネパール大地震被災者支援報告—続報	3
■支援地から ラオス	4
■支援地から カンボジア	5
■「平壌の今」を点描してみると…	6
■気仙沼だより その11	7
■地球の木で活動する「私の場合」	7
■活動日誌(9~11月抜粋)	7
■もったいないキャンペーン報告その2	8
■INFORMATION	8

## 学びあった「交流プログラム」 ～SAGUN 副代表エソダ・シュレスタさん招聘～

地球の木の招聘で初来日したネパールのNGO・SAGUN副代表のエソダ・シュレスタさん。ネパール都市開発省のスタッフで、ジェンダー(社会的性差)研究の専門家でもあるエソダさんは、ネパールと日本両国共通の社会的課題である「震災と復興」や「ジェンダー」、「多文化共生」、「女性参加」をキーワードに大学生や高校生、社会人ら幅広い参加者を対象に、都内の大学や神奈川県内の各会場で講演やワークショップを精力的にこなした。また、滞在10日間の過密スケジュールの合間に、横浜市内にある福祉施設や生活クラブデポーなどの見学、東日本大震災被災地の宮城・南三陸町長との特別懇話、さらに休息を兼ねた鎌倉観光、会員宅のホームステイを体験した。

### 歓迎会に「ナマステ」

事務所近くのレストランで会員有志13名による歓迎会。会員は笑顔でネパール流の両手を胸元で合わせた、「ナマステ」や英語で自己紹介。和気あいあいのムード。「幸せとは何か」のアイスブレーキングでは、エソダさんいわく、「息子が誕生した時」、2番目は「海を見た時」だったとか。「海なし国」であるネパールならではの答えだった。

続いてSAGUNの紹介の中で、目的とモットーとしては、「参加型手法を通じて草の根の団体や機関を強化する。少数民族の人たちの権利を促進する。知識や情報を記録する。周辺化された人たちが開発の主流となるようにする」などと強調した。続いて、2006年から始まった地球の木とのパートナーシップについては、価値観を共有する団体同士であり、これが「幸せ分かち合いムーブメント」の始まりだったと当時を振り返った。またこれと同時に、人材育成や学校図書室の充実、そして今回のネパール大地震への支援活動についても具体的な数字を示し、現地の復興状況の説明を行った。



カースト制度について説明するエソダさん(アートスクエア木月)

### エソダさん滞在スケジュール (10月17日～26日)

月 日	プログラム
10/17 (土)	来日 東戸塚デポーを訪問。地球の木の展示会を見る
10/18 (日)	歓迎会 (Bistro Soul Kitchenにて)
10/19 (月)	地球の木事務所であいさつ
	デイサービス あーぶれ訪問
	ストレッチ体操クラスに参加。ショッピング
10/20 (火)	ランチと交流会・リサイクル着物市 (乳井宅) 講演「震災とジェンダー」(聖心女子大)
10/21 (水)	鎌倉・江の島観光
10/22 (木)	南三陸町長との懇話 (白金台・本願寺) 立教大学講義
10/23 (金)	WE21との共同企画ワークショップ 「震災と女性の社会参加」(かながわ県民センター) つるみ WE ショップ訪問
10/24 (土)	逗子の海散策。鎌倉・淨妙寺など見学 ショッピング
10/25 (日)	ワークショップ「多文化共生の社会づくり ～震災後のネパールで」(アートスクエア木月) お別れ会の食事
10/26 (月)	帰国

## エソダさん 笑顔で参加者を魅了

### ◆ 「震災とジェンダー」—聖心女子大で

この講演は、同大で講師を務める磯野会員の学生たちが中心になって作ったグループ「Torch For Girls (TFG)」と地球の木との共催で行った。TFGは「さまざまな弱い立場にある人々に寄り添いながらその心を照らしていくこと」をモットーに、現在は東日本大震災後の福島における女の子たちが抱えている課題を調査し、「女の子のための震災キット」の製作などを行っている。講演会では、初めにエソダさんから、ネパールの震災において見られた人身売買などのジェンダーの課題についての報告がビデオを交えながら行われ、次にTFGから、同じような状況が東日本大震災後の福島にも見られたこ



過密日程の中、鎌倉でほっと一息

とが報告された。一方で、ネパールの復興作業では他国に出稼ぎに行っていた若者たちが帰国して母国の復興のために精力的にボランティア活動をしている姿がネパール人を勇気づけてい

ることが明らかにされた。エソダさんは、TFGのような日本の女子学生たちが活発に活動している姿に感銘を受け、世界の若者たちがつながっていって欲しいと語った。

### ◆ 「ネパール大地震と女性の社会参加」 —WE21ジャパンと共に

参加者はWE21のメンバーら男性5人を含む総勢35名。まずは「自分の人生で影響を与えたものは何か」のアイスブレーキング。6班に分かれて思いを口にする参加者を笑顔で聴きまわるエソダさん。

このアイスブレーキングで、参加者同士の親近感も深まる。エソダマジックとも言える巧みな進行ぶり。その頃合いを見て本題のプレゼンテーション。テーマはSAGUN。参加者がメモを片手に聴き入る姿はまさに「学びの顔」。

本題に関連する質疑応答で関心が高かったのは、未だ根強く残るというカースト制度と震災後も弱者の立場にある女性や子どもの人身売買の実態について。前者についてエソダさんは、「結婚後に夫宅に行った時に台所に立つことを拒否されたりし、姑は私の手料理を食べなかった」との逸話を披露した。夫とは同じ民族のネフール族でも、上下関係があり、夫のほうが高かったためにこの種の差別を受けたという。現在、母国のネパールでは新憲法が発令され、カースト制度による差別は否定されることが明記されているし、女性差別に関する国際条約にも批准しているものの、機



▲WE21ジャパンの皆さんと  
楽しくワークショップ▶

能していないという実態も明らかにした。後者については、女性や子どもが犠牲になる人身売買の数は年間5~7千人に上り、背後には根深い人身売買ネットワークがあるとし、これを根絶しない限り解決はあり得ないと憂えた。

### ◆ 「多文化共生の社会づくり」 ～震災後のネパールで～」

25日の朝刊各紙の外報面は、期せずして「震災半年のネパール」特集。内容はエソダさんがこれまで語った“古いニュース”ばかり。そのことを話題に始まった最後のワークショップ。これもまた、K-DEC(かながわ開発教育センター)との共催だ。会場のアートスクエア木月(川崎・元住吉)には男女2人の高校生を含む20名が出席した。アイスブレーキングは「自分が得意とする知識」。2人の高校生は父母に相当する年配者の人生経験に圧倒されたのか、口ごもる場面があったが、「私も早く年とっていろんな経験をしたい」と周囲を和ませる20代の女性にみんなも笑顔満開。エソダさんは「人間の知識は大海に比べれば滴に過ぎない。それに知識を生かすにはまず謙虚でなければならない」とし、高校・大学生を含む若い世代のボランティア活動については、「視野を広げ、グローバル・シチズンを目指してほしい」との期待感を滲ませた。

(ネパールチーム・丸谷士都子、乳井京子、磯野昌子、野崎俊一)



▲アイスブレーキングは  
いつも新鮮

◀事務所訪問



インタビュー

## エソダさんにお聞きしました



## ◆ 今回の滞在の全体的な感想は？

日本へのご招待本当にありがとうございました。ネパールでは、新憲法発布後インドの反発に遭い、ガソリンや生活物資が1ヶ月も入らない状況でした。日本に向かう飛行機の中、国のことがとても心配でした。でも、埃がなく、静かで、インフラが整っている日本に来て、一時の安息を得ました。8歳の時初めて日本人との心に残る交流があつて以来、私にとって日本はあこがれの国でした。雑誌でしか見たことのない日本庭園をこの目で眺めながらお抹茶をいただいたり、大好きな海で貝を拾ったり、わくわくすることがたくさんありました。また、講演・ワークショップを通してたくさんの方々に会えたことも心に深く残っています。地球の木の考え方についてさらに理解が深まりました。

4カ所の家庭にホームステイをし、ご家族に温かく迎えていただきました。マンション、一戸建て、子どものいる家庭など、いろいろな生活を垣間見ることができました。町中で驚いたことのひとつは、付き添いもなくひとりで外出している高齢者がたくさんいたことです。家ではどのように生活をしているのか、気になりました。

◆ 日本の女性たちについて  
どのような印象を受けましたか？

出会った女性たちみなさんから、ポジティブな雰囲気が伝わってきました。地球の木の会員や、ワークショップに参加した女性たちは、知識を得たいというわくわく感にあふれています。また、生活クラブ生協のデポー、デイサービスあーふれ、WE21のショップを見学した時は、女性が主体的に社会に参加する場があることを知り、とても元気づけられました。

リサイクル着物市が地球の木会員の家で開かれました。いらなくなつた着物をよい活動のために寄付するのはすばらしいと思います。ネパールでもサリーをたくさん持っている人がいますので、見習うとよいと思いました。



## ◆ 若者たちの印象は？

プログラムに参加した大学生や高校生に大きな希望を感じました。聖心女子大学で講演を行った時、若い女の子たちの災害時の備えについての活動をしている大学生に会いました。東日本大震災の時、シェルターにはトイレが男女共同であったことを知り、驚きました。女性たちの脆弱な環境など、ネパールのジェンダーの課題に共通する点もありました。災害時には弱い立場の人に救いの手を差し伸べることが大切です。

ネパールでは地震の直後、若者の目覚ましい活躍が見られました。日本だけでなく「グローバルユース」として外国の若者ともつながって情報交換すれば、さらに発展することができるでしょう。ぜひネパールの若者ともつなげたいと思います。

## ◆ 日本の人たちへのメッセージを

女性たちは、仕事を持っていても家事や子育てもきちんとやらないといけないと思いがちです。一方、男性も、自分が仕事をして家族を養わなくてはならないという責任感を背負っています。解決するには、女性の問題だけに焦点を当てるのではなく、男女の役割と一緒に考えていくことがジェンダーの考え方です。けんかをするのではなく、心を開いて話し合うことが重要です。

日本では、若い人たちの間にいじめや自殺が多いと聞きました。大人が冷静に話し合ってよい関係を作つていけば、若い人たちも希望を持って生きていけることでしょう。

## ネパール大地震被災者支援報告—続報

地球の木はネパール大地震での第二次支援活動として、仮設住宅建設に際して必要なトタン板を支援することにしました。SAGUNIは村を訪れこの支援活動について協議し、最終的に135世帯の支援対象者を決めました。しかし、9月20日にネパールで新憲法が発布されてから、インドの反発により10月末現在、燃料補給が途絶えています。このため対象地域に物資を運ぶことができず、11月から建設が始まる予定だったものが現在のところ見通しが立っていません。今後もSAGUNIと連絡を密に取り合いながら、皆様からいただいた大切な寄付を現地の復興と再建に結びつく活動にすることをお約束します。



## 変わるラオス社会とこれからの支援

9月16日JVCラオス現地事務所代表林真理子さんと共に、会議に出席のため来日したフンパンさん（JVCラオスの現地農業スタッフ）から支援地および最近のラオスの事情を聞きました。フンパンさんは2010年、栃木県にあるアジア学院で9ヶ月間農業研修を受け、地球の木は研修費用の一部を支援しました。今回の報告会で、JVCラオス支援活動の「持続可能」「村人の参加を中心に」という基本姿勢を次の2つの活動から再認識しました。（写真提供：JVC）

### ①米銀行

ラオスでは、1人1ヶ月20kgも食べるという「もち米」。国民の8割が自分が食べるための米作りに携わっているといふ。しかし支援対象の貧しい村では、天候不順による不作の年は言うに及ばず、働き手を失ったり、田んぼが狹かつたりする家族にとっては、数ヵ月分の米が不足するのは毎年のことである。

その場合、米を買うため林産物を探つて売ったり、他の家の田んぼの手伝いをして米を分けてもらう。そうすると自分たちの米作りができる。その悪循環を断ち、しっかり食べて米作りをするという良いサイクルにもっていくために、JVCと村のコミュニティで作った米銀行（貸し米システム）がある。外部から借りると50%、あるいは倍返しといった高利で、米を返さなければならぬが、低利で米を借りられる米銀行は、村人にとっては無くてはならない。6年後には、JVCが原資として供出した米を返すという約束がある。これは村人たちが自立して、今ある制度を自分たちで持続、管理していくように、そして決してその場限りの、与えるだけの支援ではなく、将来を見据えた支援である証しだ。



村人たちと談笑するフンパンさん



井戸ができると水汲みがぐっと楽になりました

意見を言うべきでないという文化があり、女性の参加が少ない。JVCは日々、工夫しながら参加を促しているそうだ。

（会報作成チーム 浜辺美英子）

### ～ラオス社会の変化～

自給自足で暮らしてきた時代と違つて電気などが入ってくると、その便利さと引き換えに、現金が必要となる。しかし国内では、学校を出ても仕事は少なく、低賃金。やむなく出稼ぎに行くことになるが、悪徳仲介業者のあっせんで、

人身売買なども多く、その後は悲惨な運命が待っている。ゴールデントライアングルに近い所では、麻薬中毒者も多い。また近隣国企業の進出による環境破壊や住民への健康被害など、深刻な問題が後を絶たない。

### ～フンパンさん～

大学生2人の父親であるフンパンさん。後半は家族の写真を見せてくれ、一気に場がなごんだ。9歳で母を亡くし、それが遠因で14歳から7年間の出家。苦しかった経験を子どもたちに伝えようとしても、新しい世代はなかなか

実感できないようだ。貧しく育ち、苦労もしてきているので、支援する貧しい人たちがどのように暮らしているか、また彼らの必要なことや気持ちがよく分かると思ったら、現在のNGOの仕事に就いた、という。

### ～支援の難しさ～

ラオス社会の変化の波は支援対象村にも確実に押し寄せてきている。林さんが着任した3年前とはずいぶん様子が変わってきているそうだ。これまでJVCはコミュニティの支え合い、助け合いを尊重した支援活動を目指してきた

が、地域の活動に参加するより、出稼ぎで現金収入を得たいという人が増えてきているとのこと。彼らの意思と協力が無いと支援はうまくいかない。「今後どういう形で支援していくかが課題です」と林さんが語ってくれた。



## 支援はやはり"人ととのつながり" CWCC\*訪問レポート

「折れない心で立ち直る」DV・レイプ被害者支援プログラムは今年で2年目。

7月、今年度の支援金を届けにCWCCプロンペンシェルターを訪問しました。

\*CWCC (Cambodia Women's Crisis Center) : カンボジア女性緊急救済センター

### ●少女たちの写真を撮ることに

今回は友人のフォトグラファーも同行しました。「カンボジアで何がボランティアはできないか」と言われたので、地球の木の会報などのための写真撮影をお願いしました。事前の打ち合わせで「シェルターにいる少女たちの写真は撮っちゃいけないの？」と聞かれ、公開しない写真なら大丈夫なはずとCWCCのカウンセラーに許可を取ってみました。すると思いがけないことに、写真を撮って欲しいという被害者が大勢いることが分かりました。どうせなら、お化粧をして綺麗になってカメラの前でポーズしてもらおうと、化粧品やその他小物を日本で買い集めて持って行きました。

CWCCも彼女たちのスケジュールを半日空けてくれたのですが、実は私はどうも乗り気ではありませんでした。カンボジアで仕事を始めて今年で10年。特定の人に特別な感情を抱いたりするとコミュニティのバランスが崩れること、また過度の支援がカンボジア社会を依存体質にしてしまうことを目にし、それらに常に配慮して支援をしてきたと思っています。以前、被害者の女の子にインタビューして、その子のことが忘れられない位つらく、個人的にこっそり支援したいとも思いましたが、そのような感情も断ち切りました。そして、いつの間にか私は支援恐怖症のようなものに陥っていたかもしれません。

### ●盛り上がった当日

答えの出ないまま当日を迎えました。寮長とのミーティングの後、写真を撮つてもらいたい少女たちがぞろぞろ集まつてきました。化粧道具を並べて「どうぞ自由に使って下さい」と言うと、ほとんどの子が「使い方が分からない」と口をそろえます。そういうえば、カンボジアの田舎では結婚式の時に美容院でお化粧をし



お化粧するのって楽しいな♪

### ●支援と交流

帰路の車中、一緒に行つた地球の木スタッフと「みんな楽しそうで良かった」と話していると私の中で緊張していたものがほぐれていきました。支援はやはり人と人のつながりであり、必死になって社会を変えようとする支援は味気ないものだということ。文化、言語を超えて楽しい時を共有することの大切さ。支援と支援の間に「お互いの目線が一緒になる瞬間」の必要性を感じました。

彼女たちの次のステップがカンボジア社会にとって本当に重要な一歩であり、それは私たちの社会にとっても大きな一歩であるのだろうと思いました。会員の皆さんも支援地を実際に訪れる機会があれば是非ご参加下さい。もしどうすれば是非いろいろな機会に話を聞きに来て下さい。きっと私が共有した瞬間を感じることができますよ。

（理事 古田麻利子）

# 「平壌の今」を点描してみると…8月中旬に訪朝

「近くて遠い国」。そのイメージが強い国の一つは俗称・北朝鮮。正式名称は「朝鮮民主主義人民共和国」。8月21日～29日、「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会の主催した訪朝に参加し、初めて北朝鮮を訪れた。訪朝の目的は、地球の木も一員となって15年間続けている南北コリアと日本の子どもたちとの絵画交流の推進と、今回で4回目となる日朝大学生交流の友好・親善を図ることである。

以下は垣間見た「平壌の今」をオムニバス調で点描してみた。その心境は、「思い半ばに過ぐ感」。私の知識やこの目で見ることは、文字通り「口耳の学」なので、文の解釈などで時には違和感があることを承知していてもらいたい。

## ちょっとした驚き

### 郊外にも巨大な銅像

①首都の平壌(ピョンヤン)の目抜き通りや郊外にも巨大な金日成、金正日親子の銅像をはじめ、彫像、壁画、野外カラーパネルが建立。また、滞在先の市内でも古い平壌ホテルのロビーや訪問先の公共施設の図書館、小学校の各教室には親子の額入り写真、時には単独で掲げられていた。その数の多さと野外建立物の巨大さは想像以上(記念碑ひとつにしても、建立の趣旨や数字のごだわりを感じた)

②小学校や郊外にある民族園のトイレは和式便器。向きが逆で、手桶の水で流すスタイル(使用に戸惑った)  
③人民大学習堂(図書館)内のエレベーター案内女性が昇降時に本を片手に勉強(まさに現代版の二宮金次郎?)  
④小学2年の男児が左手に腕時計(市内小学校の課外活動・絵画クラブ参観で。玩具ではなかった)  
⑤交通整理の警官は大半が若い女性(市内の目抜き通りでも信号機が少なく、冰雪対策なのか設置位置は低い)  
⑥ハグの歓迎は風習に?(滞在中の誕生日に若い女性から花束とともに)

## 意外だったこと

### ペット犬を抱き散歩

①国産車メーカーは3社あり、国産タクシーを時には大学生も利用するとか  
②スポーツ界の人気上昇種目はローラースケートと硬式テニス  
③箸は男女で「長さ」が違うと物の本などで紹介されていたが、同じ長さの物を使用(餃子のネーミングは北朝鮮に由来と知る)  
④二人連れの中年女性がペット犬を抱いて散歩(準戦時体制が解かれた滞在最終日の朝。平壌ホテル近くの大同江近くで。釣りを楽しむ姿も)



ピョンヤン市内を走る車両。2階建てバスも



通学途中の学生

⑤地下鉄構内の写真撮影はフリー(核シェルターを兼ねているトンネルは撮影禁止と聞かされていたが自由で、駅名は地名ではなく、栄光、勝利などのネーミング)

## さもありなん

### 軍施設の撮影は禁止

- ①チマチョゴリの民族衣装は「白衣民族」ともいわれ、主流は白色のはずだが、殆んど見かけず(ホテル前のダンスパーティーで見かけた衣裳の生地は化繊で原色の派手な色が多かった。これも時代の流れか)
- ②男女とも短髪スタイルで、いわゆる肥満体型はついぞ見かけなかった
- ③軍施設の撮影は一切禁止
- ④施設見学料金は外国人には高い二重価格

## その他

### 日本語を学ぶ動機は…

- ①大学進学希望者は予備試験を経て入学するシステムで、いわゆる浪人生はいない。平壌外国语大学在学生と滞在中に同行したOBが日本語学科を選んだ理由は、「植民地化した日本という国をもっと知りたかった」の模範回答の他、「将来、活躍できる言語」「先生から薦められた」と個人差があった。授業料は無料
- ②市内の車両は、路面電車、ロータリーバスにバスが主体。キムチ生産の最盛期は地方から白菜を積んだ木炭車も平壌に駆り出されるとか
- ③マスメディアのテレビ、ラジオ、新聞について。テレビの国営放送は3チャンネル。普及率は50/パーセント前後で、準戦時体制解除の時もその旨はテレビ放映されたが、全国的にはラジオの普及率が高い。さらにこれよりも国民が得る情報は新聞が主流
- ④情報規制が厳しいと身をもって体験したのは平壌入りの持ち込み検査(日朝百年史の文庫本は没収。歴史観の違う日本人著書は要チェック?)
- ⑤外貨とショッピング(土産物は滞在先のホテル内の売店で済ませる形に。支払いはドル、ユーロ、中国紙幣の元、それに日本円と、持参の外貨が使えた)
- ⑥苦い体験(帰国の際の羽田空港税関でみやげ物は、買ったものと、もらったものを含めて10点までと制限されており、経済制裁の名の下に大半が没収されてしまった) (理事 野崎俊一)

# 心配な「よってけ工房」のこれから

**小** 原木中学校仮設住宅の「よってけ工房」のお母さんたちと昨年交流をしてから、その後何度も連絡をとり、現地に布を送ってきました。彼女たちが作るスカートタイプのエプロンは、地球の木が東日本大震災その後の気仙沼を語る時に欠かすことのできないものになっています。

仮設住宅で自分たちの居場所を見つけ、協力し暮らしてきた元気なお母さんたちの姿に、交流会で私たちは目を見張りました。その時「もう少しで上の土地の区画が終わり自分たちの家を建てられる」と笑顔で話してくれました。

9月終わり頃、電話でエプロンを送って欲しいことを伝えると、「いま仲間たちが区画の終わった所に家を建て何人かが引っ越してしまった。今年中には21世帯が出て行く」と少し元気がありませんでした。はじめは声が聞こえてしまうような薄い壁の作りにいやだった仮設住宅。しかし4年も経つと、人の気配がして安心感さえ持つようになっていたとのこと。新しい家に移れる楽しみと淋しくなる思いが交差しています。



11月7日の東日本大震災・復興支援まつり(山下公園)に  
今年も「Tree Seed」が地球の木とともに参加した

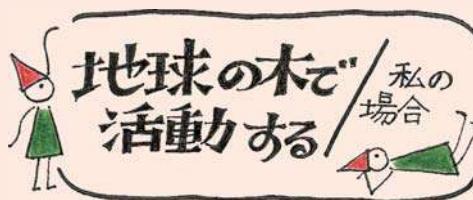
「引っ越し先にはまだ集会場も無いと思う。そうなると今までの様にみんなで集まっての活動を続けることが難しくなっていくように思える。せっかくできたコミュニティが崩れてしまうようで、どうしたら良いのか……」と話していました。

また気仙沼に彼女たちを訪ねて、私たちができる息の長い、支える気持ちを伝えたいと思います。(副理事長 堀千鶴)

**ビ** アフラを知っていますか? 飢餓に苦しむやせ細った身体とお腹だけが異様に膨らんでいる子どもの写真。40年近く前にアフリカのナイジェリアで起きた内戦の時の写真です。飢餓の状態におかれ食べる物がなく餓死寸前まで追い込まれた子どもたちのうつろな目。ビアフラは飢餓という言葉として私に訴えてきました。

そんな時、生活クラブの中に地球の木という海外支援の組織があることを知り入会しました。地球の木はアジアのカンボジア、ラオス、フィリピン、ネパールを中心に支援していました。それらの国々やそこに住んでいる人々の情報を会員の皆さんに届ける会報があり、その会報作りの仲間になることを誘われ、私自身、東南アジアの国々や人々に関心を持っておりましたので会報作成チームの一員になりました。

支援とはそれぞれの国で生活している人々の必要としていることや、家族とともに幸せに生きる喜びを応援することであ



り、またその国々や人々を知ることにより私たち自身が忘れかけた人とのつながり、人を思いやる気持ち、何気ない毎日の大切さを教えられ自分自身を振り返ることを気付かせてくれました。

これからもグローバリゼーションの嵐の中で、生き残るために変わっていく国々、人々の暮らしを、会員の皆さんに少しでも伝えられればと思っています。(会報作成チーム 柏柳妙)

## ピアフラー

1967年にナイジェリアの東部州が独立宣言をして、ピアフラー共和国を樹立。ナイジェリア政府は独立を認めず内戦に発展。1970年ピアフラーはナイジェリア政府軍に制圧され滅亡。内戦末期にはピアフラーで200万人ともいわれる餓死者を出し「ピアフラーの悲劇」と呼ばれた。

## 活動日誌(9月~11月 抜粋)

### 9月

- 8・9日 デポー展示会(緑園)
- 15日 第3回理事会
- 16日 ラオス・フンバンさん来日報告会
- 24・25日 デポー展示会(つつじヶ丘)
- 26日 第42回藤沢市民まつり
- 27日 ひらつか市民活動センターまつり
- 27日 出前講座(ASANTE!)
- 30日 地球の木カフェ

### 10月

- 3・4日 グローバルフェスタJAPAN2015
- 10・11日 よこはま国際フェスタ2015
- 11日 なが谷民活動センター祭り2015
- 17~26日 エソダさん招聘
- 17日 デポー展示会(東戸塚)

### 19日 第4回理事会

- 28日 「いのり題目」出展(妙法寺)
- 29日 ネパール大地震被災者支援報告会(ひらつか市民活動センター)

### 11月

- 1日 かまくら国際交流フェスティバル2015
- 2・3日 デポー展示会(つなしま)
- 7日 東日本大震災復興支援まつり2015
- 8日 磯子国際交流フェスティバル
- 8日 ネパール大地震被災者支援報告会(大和・カッコーフェスタ2015)
- 22日 災害支援フォーラムinかながわ(かながわ県民センター)
- 30日 第5回理事会

## もったいないキャンペーン報告 その2

地球の木会報誌No.64(前号)で、皆さまからの書き損じはがきや切手、不要となった貴金属のご寄付をいたしました。

多くの皆さまが、趣旨に賛同してくださり、ご家庭で眠っていたものを探し出してくださいました。中には額面7円というはがきもあり、一生懸命探してくださった皆さまの様子を目撃するに浮かべながら、整理をしました。はがき

は切手に変身、貴金属は信頼できる業者に買い取っていただきました。「処分はできないけど、使わない。誰かの役に立てば…」という多くの方の思いが、大きな結果となりました。

寄付くださった人数776名。額面で総額1,995,852円。地球の木の支援活動に役立たせていただきます。感謝してご報告いたします。  
(副理事長 成瀬悦子)

# INFORMATION

★地球の木のプログラムは、みなさまの会費と寄付で支えられています

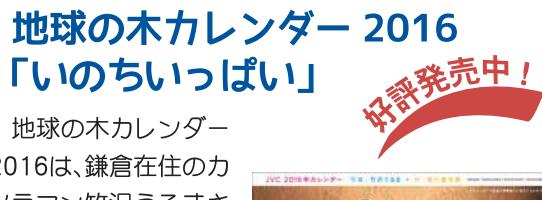


### がんばる笑顔を応援しよう！～幸せ分かち合い年末募金～

皆さまの日頃のご協力に心より感謝申し上げます。今年も残りあとわずかになりました。ネパール、カンボジア、ラオス、気仙沼の人たちと、幸せを分かち合えるよう、皆さまからのあたたかい募金を何とぞよろしくお願い申し上げます。詳細は同封のチラシをご覧ください。

■寄付領収証について 地球の木は認定NPO法人です。皆さまからいただいた地球の木へのご寄付は、確定申告によって所得税、法人税などの寄付金控除を受けることができます。申告には地球の木が発行する領収証が必要となります。2015年にいただいたご寄付につきましては、2016年1月末までに領収証をお送りいたします。

また、地球の木ではサポート会員の会費も寄付金控除の対象となります。サポート会員の会費はご連絡いただいた方のみ領収証をお送りしておりますので、申告のため、領収証の必要な方は事務局までご連絡ください(既にご連絡いただいている方は連絡不要です)。



地球の木カレンダー  
2016は、鎌倉在住のカメラマン竹沢うるまさんが撮った写真に詩人の谷川俊太郎さんが詩を添えた今までにない新しいカレンダーになっています。購入ご

希望の方は、ご住所、お名前、連絡先、購入部数を明記の上地球の木事務局までお申し込みください。ホームページからも受け付けています。お友だちやお世話になつた方へのプレゼントにいかがでしょうか。メッセージカードを付けて地球の木よりお届けします。

### イベント情報

#### ◆JVC国際協力コンサート2015東京公演

2015年12月12日(土)15:00～18:00  
場所:昭和女子大学人見記念講堂(三軒茶屋)  
クラフトの販売をします。

#### ◆デポー展示会

12月14・15日 ちがさきデポー  
2月27日 東戸塚デポー  
3月7・8日 ほんもくデポー

#### ◆地球の木講座

「ネパールから見た日本、日本から見たネパール」  
2016年1月30日(土)14:00～16:00  
場所:かながわ労働プラザ  
講師:ジギヤン・クマル・タパさん  
(かながわ国際交流財団職員)  
詳細は同封のチラシをご覧ください。

#### ◆よこはま国際フォーラム2016

2016年2月6日(土)・7日(日)11:00～19:00  
場所:JICA横浜  
6日(土)11:00～12:50 会場:やまゆり  
ネパール大地震被災者支援報告を行います。

#### ◆第15回南北コリアと日本のともだち展

2016年2月13日(土)～15日(月)  
場所:アーツ千代田3331



特定非営利活動法人  
**地球の木**



エソダさんは日本の野山の紅葉を見られる機会があつただろうか。秋、毎年のことながら、ドライブしていて散歩していく「きれいだなあ、幸せだなあ」と私はしみじみ思う。と、反射的に、目に見えない脅威、被曝している無人の福島の野山が思われてどつと悲しくなる。(K.S)